



行政主体の防災から 住民主体の防災へ

大規模水災害に備えて

令和5年7月9日避難訓練の様子（海老瀬地区緊急避難場所）

毎年のように想定を超える災害が各地で起き、被害が発生しています。板倉町では、洪水時における犠牲者ゼロを目指して避難計画を策定しました。犠牲者を出さないためには、自らの命は自ら守ることが必要です。

近年の災害の状況

近年、想定を超える災害が頻発しています。本年も1月1日に能登半島沖を震源とするマグニチュード7.6、最大震度7の巨大地震が発生しました。

板倉町で最も大きな被害が懸念される水災害を見ても、平成30年西日本豪雨では広島県や岡山県を中心に263人のかたが犠牲となり、令和元年東日本台風（台風第19号）では福島県を中心に105人のかたが犠牲となりました。このとき、町でも避難指示を発令し、4,000人を超えるかたが町内の避難所に避難しました。

行政主体の防災から住民主体の防災へ

平成30年7月に発生した西日本豪雨を検証した国の中央防災会議において、今後の水害、土砂災害からの避難対策として、これまでの行政主体の防災対策には限界があるこ

とから、住民は「自らの命は自らを守る」意識を持つこと、行政は住民が適切な避難行動を取れるよう全力で支援することが示されました。これにより、住民に対して平時より災害リスクや避難行動について把握し、災害時には自らの判断で適切な避難行動を取ることや、地域の防災力が高めることが求められました。

行政区主体で防災講習会 避難訓練を実施中です



板倉町は南側を流れる利根川、北側を流れる渡良瀬川の合流地点近くに位置し、万一、堤防が破堤した場合は、町の9割以上が浸水区域となること、さらに長期間深い浸水が継続することが国土交通省より示されています。町内の避難所は絶対的に不足することから町外の安全な地域の親戚や知人、職場などへの自主的広域避難を強く推奨するとともに、町内の避難所に避難せざるを得ない町民のかたを対象とした「板倉町洪水時住民避難計画」を策定しました。この計画では、特定の避難所や道路への集中・混雑を防ぐため、行政区ごとに避難先や避難経路の指定がなされたほか、住民が守るべきルールが定められています。

板倉町の水災害対策は

板倉町は南側を流れる利根川、北側を流れる渡良瀬川の合流地点近くに位置し、万一、堤防が破堤した場合は、町の9割以上が浸水区域となること、さらに長期間深い浸水が継続することが国土交通省より示されています。町内の避難所は絶対的に不足することから町外の安全な地域の親戚や知人、職場などへの自主的広域避難を強く推奨するとともに、町内の避難所に避難せ

「高齢者等避難」発令で 全員避難を

板倉町洪水時住民避難計画では、車による避難を基本としています。車での避難においては道路渋滞や道路冠水などの危険が伴いますので、早めに避難行動を開始することが重要です。町が避難情報のレベル3「高齢者等避難」を発令したら必ず避難を開始し、レベル4の「避難指示」発令までには全員が避難を完了してください。なお、町外に広域避難をされるかたは、このタイミングに関わらず、早めに避難を開始してください。

自主的広域避難の検討を

町内の避難所は孤立し、一度避難したら避難所から他の場所へ移動することはできません。電気も水道も使えない過酷な環境での避難生活を余儀なくされます。

平時の備えが大切です

町の避難所へ避難を考えているかたは、もう一度、自主的広域避難について検討してください。

大規模災害時に被災地まで 救済物資が届くには、おおよそ ね3日かかると言われています。

町で備蓄できる量には限りがあります。大規模な災害が起きると、町で備蓄している水や食料だけでは足りません。車を使った車中避難では、車内に必要な防災備蓄品を十分に備えることができます。最低3日分の水や食料だけでなく、少しでも快適な車中避難生活を送るために必要な備えを各家庭で考え、必ず避難時は車中に備えてください。

問合せ 安全安心係

82-6123



板倉町洪水時住民避難計画はこちらです。



国土交通省重ねるハザードマップはこちらです。日本全国の防災情報を確認できます。

利根川氾濫の危険が迫ったときに備えて 広域避難のいつ、どこへ

を考えておきましょう

この特集記事は、洪水時の避難行動の啓発を目的に、利根川氾濫域の自治体による合同企画として同時期に発行する広報誌に一同に掲載しています。

各自の置かれた状況や避難に必要な時間によって、避難を開始するタイミングや避難先は異なります。より安全に避難できる方法を確認し、考えておきましょう。

なぜ?

大雨により利根川が氾濫した場合、**広い範囲に長期間深い浸水が想定**されており、**自宅や浸水域内にとどまることはできません。**

そのため、浸水のおそれがない、市外、町外、居住地域外の地域へ、避難すること（広域避難）が必要です。

いつ?

車で避難を考えている方が多いため、**混雑による渋滞の発生が考えられます。**

台風の接近や、大雨が降り続くことが予想される場合は、利根川の水位がまだ高くない場合でも、

**暗くなる前、雨や風が強まる前に
早めの避難**

自主避難



どこへ?

浸水のおそれのある市町では公的な避難所の確保を進めていますが、市内、町内の避難所は浸水してしまうところもあり、受け入れることができる人数が限られます。

まずは 自主避難先

浸水のおそれが低い地域の親戚・知人や宿泊施設・勤務先等

各自で確保

**つぎに
市町が指定する
避難先**

利根川中流4県境広域避難協議会（板倉町・加須市・古河市・境町・坂東市・館林市・佐野市・気象庁・利根川上流河川事務所）

利根川中流4県境広域避難協議会

平成29年度に5市町をメンバーとして発足され、利根川氾濫時に「逃げ遅れゼロ」を実現するため、自治体間連携を含む広域避難態勢の構築・運用のための検討を行っています。